



バゾプレッシンはオスマウスの副嗅球における シナプス可塑性の誘導を促進する

高知大学医学部生理学講座（統合生理学）

難波 利治

（第 68 回 日本生理学会中国四国地方会 奨励賞）



今回、日本生理学会中国四国地方会奨励賞という名誉ある賞を頂きまして大変光栄に存じます。受賞演題は学位論文のテーマとして柁前教授（現名誉教授・特任教授）の下で、行ってきたものになります。多くの哺乳動物は主嗅覚系と鋤鼻系という二つの嗅覚系を持っています。この内、鋤鼻系はフェロモンと呼ばれるニオイの情報処理を行い、様々な社会行動の発現に関わっています。この中には、相手のフェロモン情報の学習・記憶を必要とするものもあり、鋤鼻系の最初の中継核である副嗅球の僧帽細胞と顆粒細胞間のシナプス伝達の可塑的変化がその神経基盤である事が知られています。このシナプス伝達の可塑的変化に対するバゾプレッシンの効果を電気生理学的手法を用いて解析したところ、オスマウスにおいてバゾプレッシンが僧帽細胞から顆粒細胞への興奮性シナプス伝達の可塑的変化を促進する事を明らかにしました。現在は山口教授の下で、匂いの情動行動を学習する神経回路機構を明らかにしようとして

います（詳しくは高知大学医学部生理学講座（統合生理学）ホームページをご覧ください）。

私事ではありますが、昨年末にやっと大学院を修了することができました。まだまだ研究者としては未熟ではありますが、今回の受賞を励みにし、これからも一層の努力を重ねていく所存です。最後に、常日頃お世話になっております生理学講座の皆様へ深く感謝すると共に、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

- 2007年 3月 東京薬科大学 生命科学部 卒業
- 2009年 3月 高知大学大学院 医学系研究科 修士課程 修了
- 2016年 12月 高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 博士課程 修了
学位取得 博士（医学）
- 2016年 12月 高知大学 医学部 生理学講座（統合生理学） 研究員